

今年度第3回目となる外国語活動の研究授業を、区の外国語活動・外国語科研修会として行いました。協議会では、「個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実」や「児童の学習意欲を高める単元目標の設定」について意見交流を行いました。指導・講評では、関西外国語大学 英語キャリア学部 英語キャリア学科教授 直山 木綿子先生よりご指導いただき、研究を深めました。

## 研究主題

### 関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～ 思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：6年2組 担任

単元名：Unit4 Let's see the world.

指導講評：関西外国語大学 英語キャリア学部 英語キャリア学科教授 直山 木綿子先生より



研究主題をもとに、以下3つの視点を中心に授業を行った。

#### ① 個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実

今単元を始める前にとったアンケート結果から、児童が『自信をもって英語を話すことができない』という課題を解決するために、個人の課題を解決する『マイタイム』を設定した。『マイタイム』では、やり取りの間に、個々で出た疑問を調べたり、表現を友達と確認したりし、個人の課題を解決する。課題解決によって、やり取りの際に自信をもって表現することができる児童の増加が期待できる。

『マイタイム』で解決した課題をやり取りで実践する。実践によって新たに浮かび上がった課題を解決するというサイクルを通して、個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実の実現を目指す。

#### ② 表現を繰り返し使うための工夫

単元目標を「先生が海外旅行先の参考にするために、友達やALTの先生とおすすめの国やその国でできることなどを伝え合おう。」と設定した。担任の海外旅行先を決めるための参考に、クラスで海外旅行ガイドブックを作成することを目標にすることで、児童が学習に取り組む必然性をもつことができるようにした。

また、毎時間やり取りを設定し、自分の行きたい国についての興味を深めたり、友達の行きたい国と自分の行きたい国との比較をさせたりする中で、自然と外国の文化に興味をもてるような展開をつくった。

#### ③ 効果的な中間指導

中間指導は、主に、個人の力では解決することができない疑問を学級全体で解決する場として設定している。また、質問の仕方や回答の仕方に不安がある児童がいた場合は、全体で表現を練習する時間としても活用している。ただし、表現の確認は言語活動ではないため、練習の回数を決めて行っている。

児童がやり取りをしている間、教師はその様子を観察し、中間指導で取り上げる児童を精選している。やり取り中はペアごとに細かく指導することができないため、「やり取りがスムーズにできている児童」「単元の学習内容だけでなく、既習事項を使ってやり取りをしている児童」を中間指導で取り上げ、全体に共有している。

#### 〈授業者自評〉

研究主題『関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～』をもとに、児童が主体的に学習に取り組むことを目指して、最終活動に向けた適切な単元目標の設定をしたり、それに伴う単元指導計画を工夫したりして授業を行ってきた。本単元では、「先生が海外旅行先の参考にするために、友達やALTの先生とおすすめの国やその国でできることなどを伝え合おう。」と、児童に共通の単元目標を提示し、同じ目的をもたせることで言語活動の充実を図った。

## 〈研究協議会〉

### 協議テーマ1 「マイタイム」について

- ◎全体の前では質問しにくいけれど、自分の課題を解決させたい児童にとってはとても効果的だった。
- ◎「赤の広場の言い方がわからない」という児童がいたが、マイタイムを活用して英語での言い方を音声機能を使って理解し、実際にマイタイム後のやり取りで活用することができていた。
- 『マイタイムを活用した課題解決方法は多岐にわたる』と指導案に記載されているが、ほとんどの児童が、自分がおすすめる国の情報を調べる時間になっていた。  
→本単元のマイタイムはおすすめる国の情報を調べるのがメインになると考えていた。前单元だと表現や単語だった。单元によってマイタイムの位置づけ、活用の仕方が違うと認識している。
- マイタイムでタブレットを使うことへの必要感はある児童にあったのか？  
→4年生でも同じように実践しているが、マイタイムは、必ずしもタブレットを活用するだけの時間ではない。デジタル教科書などで音声を確認する児童がいたり、教師や友人に表現の使い方を相談する児童がいたり。そのときの自分の課題を解決するために、自分で解決方法を取捨選択して取り組む時間がマイタイムだと認識して実践している。
- Google 翻訳の活用についてどう考えているか？  
→昨年度、6年生がGoogle 翻訳を使ったときに、「難しい表現が出てきて困った」「言えたとしても相手に伝わるか心配」という意見が多く出た。このことから、Google 翻訳では単語を調べる際に使うことはあっても、表現や言い方などは中間指導で学級全体で既習表現を想起しながら解決するようにしている。

### 協議テーマ2 単元目標、本時のめあてについて

- ◎担任との信頼関係があることで児童が意欲的に学習に向かうことのできる、よい単元目標だった。
- ◎単元目標をちゃんと示しているから、児童が意欲をもって学習に取り組んでいた。
- ◎この单元だと、“Where do you want to go?”の表現が使われていることが一般的だが、単元目標の内容にあわせて、“Which is nice country?”という、今回の学習にとって適した表現になっていた。
- 本時のめあて『自分のおすすめる国について友達とくわしく伝え合おう。』の『くわしく』は、どれだけ教師と児童とで共通認識ができていたのか？  
→前時の段階で、「もっとくわしく伝えたい」という児童の振り返りから本時のめあてに反映した。校長先生のお手本のあとに、「校長先生くらいくわしくに紹介してくれたら行きたくなるな…」とは言ったが、もう少し『くわしく』について強調した方がよかった。

## 〈指導・開発：関西外国語大学 英語キャリア学部 英語キャリア学科教授 直山 木綿子先生〉

### 学校での取り組みについて

- ◎教員はみんなで助け合い、学校で育つ。それは子どもたちも同じ。この学校が変わっていくさまを目の当たりにしている。

### 協議テーマ1 「マイタイム」について

- ・マイタイムは、決してICTの活用が絶対ではない。ICTの活用は、子供にとって自分の課題を解決するための一つの手段。今日はたまたま「国について調べたい」という児童が多かったから、ネットを使っている児童が多かった。個別の課題を解決させるための学びだから、『個別最適な学習』である。

### 協議テーマ2 単元目標、本時のめあてについて

- ・先生が、自分(児童)がおすすめる国に行きたくなるためにくわしく伝え合うはずなのに、本時では、何のために『くわしく』なのかが不明確になってしまっていた。  
→校長先生が、児童への見本にイタリアをおすすめしたことにに対して、先生が、“Wow! Italy is nice country!”というリアクションが必要だった。その後、児童がクロアチアをおすすめしたことにに対して、クロアチアの情報を出すために他の児童に『くわしく』を質問をさせていたが、単元目標は「先生のために…」なので、リアクションや質問は先生がするべき。くわしく伝え合うという手段が目的になってしまっていた。
- ・中間指導では、一部の児童の発言だけで展開されている時間があった。全然手が挙がらないときは、「ペアで相談してごらん。」と言って、一部の児童だけに話をさせるのではなく、みんなに話をさせるようにするとよい。
- ・マイタイム実施中、「〇〇が〇〇を調べているよ。」など実況中継が重要。より取り組みを教師が全体に共有することで、全員がタブレットにいかないようにしないといけない。友達同士の相談。教科書、本の活用など。